

国際アグリバイオ事業団 アグリバイオ最新情報  
2014年10月31日

世界

遺伝子組換え生物 (Living Modified Organisms, LMOs) の安全な使用に関する  
国連会議が韓国で開催

国連食糧農業機関 (UN-FAO) 事務局長は、世界は持続可能な農業に向けて「パ  
ラダイムシフトが必要と述べた

政府は、遺伝子組換え生物 (Living Modified Organisms, LMOs) の安全な使用  
に関する決定に同意

ABIC2014 講演者が世界の食料安全保障、農業改革戦略、リーダーシップについ  
て議論

Borlaug 国際シンポジウムで 2050 年に 90 億人を如何にして養うかを議論

世界食料デーは、家族農業生産者に焦点を当てた

コムギ科学者 **Sanjaya Rajaram** 博士が 2014 年度世界食糧賞を受賞

アフリカ

農業革新がアフリカの農業生産者の競争力を高める

南北アメリカ

より効率的な根粒を作り、窒素固定を効率化するダイズを開発

MAUI 市長は、GM 作物のモラトリアム提案は現実的ではないとした

GMO 反対消費者は、GMOs が何であるかを理解していないことが分かった

専門家が、アグリバイオの情報交換における課題を明らかにした

USDA は、害虫耐性 (IR) ダイズ MON87751 の規制外の決定を延長

アジア・太平洋

中国は、遺伝子組換え作物のメディアキャンペーンを開始

来年からオーストラリアで除草剤耐性 (RT) キャノーラが商業栽培される

研究

様々の害虫制御下での BT イネの収量増の評価

文献備忘録

科学者からの直言：一般大衆への情報提供に関する遺伝子組換え専門家の視点

## と経験

各地のバイオ情報センター (BICS) から  
科学者と政策決定者が学生に農業研究に進むように勧めた  
タイバイオ情報センター (THAI BIC) は、2つのバイオテック情報交換ワ  
ークショップを開催  
Pangasinan AGRI 役員および農業生産者が BT ナスを支援発言

---

## 世界

遺伝子組換え生物 (Living Modified Organisms, LMOs) の安全な使用に関する  
国連会議が韓国で開催

第7回生物多様性条約締約国会議とカルタヘナ議定書の締約国 (COP-MOP7) を兼  
ねた会合が韓国 Pyeongchang で 2014 年 9 月 29 日に開会され、この5日間の会議  
への参加者には、政府、市民社会、産業界からの代表が含まれている。

会議の目的の一つは、遺伝子組換え生物 (LMOs) の安全な輸送、取扱いおよび使  
用を確保するためにさらなる決議採択することである。また、カルタヘナ議定書  
のための戦略計画 (2011-2020) を通してカルタヘナ議定書の実施を進めること  
にある。代表団はまた、カルタヘナ議定書及びカルタヘナ議定書の責務と救済に  
関する名古屋-クアラランプール補足議定書の実施のための資金メカニズムや資  
金源に関連する問題について議論する。議論の問題点は、リスク評価とリスク管  
理、遺伝子組換え生物 (LMOs) に関する社会経済的な配慮、カルタヘナ議定書の有  
効性の検討などである。

詳細は、以下のサイトにある。 [http://www.cbd.int/doc/press/2014/pr-2014-09-29-  
bscopmop7-en.pdf](http://www.cbd.int/doc/press/2014/pr-2014-09-29-bscopmop7-en.pdf)

---

国連食糧農業機関 (UN-FAO) 事務局長は、世界は持続可能な農業に向けてパラ  
ダイムシフトが必要と述べた

国連食糧農業機関 (UN-FAO) 事務局長 José Graziano da Silva 氏は、世界の食糧安  
全保障を達成するために科学に基づいた方策を支援することを要請している。ロ  
ーマでの第24回農業委員会 (COAG) の開会で、da Silva 氏が農業に関する世界的  
「パラダイムシフト」を呼びかけた。即ち農業への水や化学品の投入量を減少さ  
せ、より持続可能で生産的・長期的な方向に向かうことを呼びかけた。

彼は、農業生態学、気象変動対応農業、バイオテクノロジーや遺伝子組換え生物の使用を含む方策が2050年までに90億になると予想される世界の人口の需要を満たすのに役立つだろうと述べた。

da Silva氏によると過去の資源投入型解決策は、すでにその限界が示され、使用できない。「我々は理想主義ではない、科学と証拠に基づいた包括的アプローチを模索する必要がある。」と彼は付け加えた。

詳細は、FAOのニュースリリースを以下のサイトをご覧ください。

<http://www.fao.org/news/story/en/item/250148/icode/>

---

### 各国政府は、遺伝子組換え生物 (Living Modified Organisms, LMOs) の安全な使用に関する決定に同意

遺伝子組換え生物等の安全な使用 (遺伝子組換え生物) に関する国連会議に参加した各国政府は、その取り扱い、安全な輸送、その利用に関するツールとしてカルタヘナ議定書の実施を生物多様性条約へと進める行動規範について同意した。会議でのハイライトの一つは、リスク評価とリスク評価能力向上のためのツールとして実際のLMOsリスク評価指針の利用に政府や他の関係者を招聘するとの決断である。また、2016年の第8回会合締約国には、指針の改訂版を出す決定した。

また、締約国は、直接利用(食品または飼料)のLMOsや国境を越える移動の処理法を特定することについてLMOsに関する既存の文書にBS-III /10決議で特定される情報を取り込んで議論を続けることに同意した。

社会経済的な配慮も議論され、専門家グループがさらにこの問題を明解にすることとこの課題に関する適切な指針を作成することが決定された。

プレスリリースの内容は、以下のサイトにある。

<http://www.cbd.int/doc/press/2014/pr-2014-10-03-bscopmop7-en.pdf>

---

### ABIC2014 講演者が世界の食料安全保障、農業改革戦略、リーダーシップについて議論

農業バイオテクノロジー国際会議(2014 ABIC)に、60カ国以上から代表者が出席し、農業バイオテクノロジーのメリットを2014年10月5-8日にカナダ、サスカチュワン州で議論した。会議は、サスカチュワン州のバイオサイエンス産業協会(Ag-West Bio)が主催した。

42名ほどの世界的に有名な専門家がさまざまな革新課題、例えば世界的保障のための革新、農業革新のための戦略、技術革新を成功に導く方策に取り組んだ。

基調講演を Dr. Borlaug の孫娘であり、Norman E. Borlaug 国際農業研究所の外郭団体の副所長 Julie Borlaug 博士が行った。彼女は、飢餓との闘いにおける統合的アプローチとしてのバイオテクノロジーの役割を講演した。

スイス連邦工科大学の名誉教授で、ゴールデンライスの開発者の一人である Ingo Potrykus 氏は遺伝子組換えが直面している課題とその進歩について講演した。Potrykus 博士によると、「技術は、安定で、再現可能な、形質は純粋であり、試験した限りすべてのイネ品種に適用できる。しかも、半カップのコメでビタミン A 欠乏症を防止するに十分なプロビタミン A を提供できる。最適化した品種は フィリピン、バングラデシュ、インド、ベトナム、インドネシア、中国 で開発中である。これまでの伝統的な品種と比較して、ゴールデンライスは、費用対効果の高い、しかも持続可能なものである。

会議の詳細は、以下のサイトにある。 <http://www.abic.ca/abic2014/index.php/abic-2014-highlights>

---

### **Borlaug 国際シンポジウムで 2050 年に 90 億人を如何にして養うかを議論**

2014 年 Borlaug 国際シンポジウムが 10 月 15 日から 17 日までアイオワ州 Des Moines で開催された。シンポジウムのテーマは、「人類最大の課題：私たちは持続的に 2050 年までに地球上の 90 億人を養うことができるか？」であり、小規模農家を支援して、栄養価の高い食品の必要性を満たすための強化策、技術革新、新提案に焦点を当てた。

イベントでのハイライトの一つは、40 歳未満の 4 人の革新的若者に 40 Chances Fellowships を授与し、選定したアフリカ諸国で飢餓、貧困、紛争に対処する市場や社会起業プロジェクトを実施するために、スタートアップ資金として 15 万ドルを提供する事である。

Borlaug シンポジウムでは専門家及び世界中の政府首脳、政策立案者、農業生産者、科学者、NGO の指導者、民間企業からの多様な考えを取り上げた。講演者は、国際農業開発基金会長 Kanayo F. Nwanze 氏、米国農務長官 Thomas J. Vilsack 氏、トリベリアの農業大臣 Florence Chenoweth を含む多くの方々だった。

詳細は、以下のサイトにある。

<http://www.worldfoodprize.org/index.cfm?nodeID=71721&Audienceid=1&preview=1>

---

### **世界食料デーは、家族農業生産者に焦点を当てた**

2014 年 10 月 16 日の世界食糧デーに「家族農業生産者：世界に食糧を、そして地球への思いやりをもって」をテーマに祝典を行った。そして、国連食糧農業機

関 (FAO) は同日に食糧農業 2014 の報告を出し、世界 5.7 億農業生産者の 10 中 9 が、家族によって運営されていると報告した。家族農業生産者が世界の食糧の約 80%を生産している。このように、家族農業生産が、農業の大勢であり、同時に将来的に飢餓を軽減し、食糧安全保障を達成するのに大きな変化を必要としていると報告した。

現在家族農業生産者は、3つの主要な課題に直面している、即ち、食品や栄養改善に関する世界的要請に対応する収量増加、持続可能な地球環境保護、貧困と飢餓から抜け出すための生産性の向上と生活の活性化である。FAO 事務局長 **Jose Graziano da Silva** 氏によると、すべての課題は、家族農業生産者が技術革新の主役でなければならないことを意味するとしている。

このため、報告書は、公共部門、市民社会グループ、および民間セクターに農業革新システムの強化を求めている。農業革新システムの開発とは、今日のますます複雑化する世界ですべての機関や関係者がよい働き方を開発し、導入しようとしている農業生産者を支援することである。革新能力は、様々のレベルで推進する必要がある。そのために農業生産者、研究者、助言・支援提供者が統合されたバリューチェーンとの情報を共有するネットワークやパートナーシップを創成する必要がある。

この報告書は、以下のサイトにある。<http://www.fao.org/publications/sofa/en/>

---

### コムギ科学者 **Sanjaya Rajaram** 博士が 2014 年度世界食糧賞を受賞

コムギ育種家 Sanjaya Rajaram 博士がアイオワ州 **Des Moines** で開催の世界食糧デーと国連 FAO 家族農業生産者国際年の行事の際に世界食糧賞を受賞した。この賞は、その創設者であり、Rajaram 博士の師である **Norman Borlaug** 博士の百周年を記念して与えられた。

Rajaram 博士は、480 以上のコムギ品種を開発した。彼の研究が 2 億トン以上の世界小麦生産の著しい増加につながった。冬コムギと春コムギの交雑で、世界中の幅広い環境下での高い収率と信頼性をもつコムギ品種を開発した。彼はまた、さび病抵抗性コムギ品種を開発した。

Rajaram 博士は、受賞に当たって、「この賞は、発展途上国の農業生産者と国家農業システムでの農業生産者の柔軟で革新的な精神の表彰であり、このような貢献なしには、私の研究は不可能だった。私の役割は、彼らに貢献することでありそのものは、まだミッションとして残っている。」と述べた。

Rajaram 博士は、**Borlaug** 博士と共に働き、メキシコの国際トウモロコシ・コムギ改良センター (CIMMYT) でのコムギ育種プログラムの長として **Borlaug** 博士の後

を次いだ。世界食糧賞の理事長 **Kenneth M. Quinn** 大使は、「**Borlaug** 博士自身が **Rajaram** 博士を現代世界最高のコムギの科学者で偉大な視野をもった科学者と讃えていた。」と述べた。**Rajaram** 博士は、現在 **Resource Seeds International** の長であり、乾燥地農業研究のための国際センター (**ICARDA**) のコンサルタントでもある。

詳細は、以下のサイトにある。

[http://www.worldfoodprize.org/index.cfm/24667/33059/2014\\_world\\_food\\_prize\\_awarded\\_to\\_dr\\_sanjaya\\_rajaram\\_at\\_iowa\\_state\\_capitol](http://www.worldfoodprize.org/index.cfm/24667/33059/2014_world_food_prize_awarded_to_dr_sanjaya_rajaram_at_iowa_state_capitol)

---

## アフリカ

### 農業革新がアフリカの農業生産者の競争力を高める

アフリカ開発銀行 (AfDB) と国際食糧政策研究所 (IFPRI) が発行した報告書では、アフリカが世界的に競争できるようになるには、農業技術革新を受け入れる必要があると述べている。報告書 (アフリカのための遺伝子組換え GM 農業技術：現状把握) は、GM 作物に重点を置いたアフリカのバイオテクノロジーの状況に関する最新情報を収集し、その導入による成果と制約を評価している。

報告書はまた、アフリカの農業を低い生産性から経済発展の強い牽引者に引き上げるために変革の必要性を論じている。著者は、そのための障碍を克服するための先導策を提案している。例えば、農業バイオテクノロジーの研究開発における公共投資の増加、規制の枠組みや規制能力の改善;そして効果的かつ広域的なコミュニケーション戦略の開発などを挙げている。

この出版物の詳細は、IFPRI の以下のサイトにある。

<http://www.ifpri.org/publication/gm-agricultural-technologies-africa-state-affairs>

---

## 南北アメリカ

### より効率的な根粒を作り、窒素固定を効率化するダイズを開発

South Dakota 州立大学 (SDSU) 植物科学者 **Senthil Subramanian** 氏は、ダイズ根粒の形成を指令・調整する植物側の機構を解明する新しい研究を先導している。この知見を、**Subramanian** 氏は、根粒を作り、これらの機能を調節する分子機構を操作することにより、窒素固定をより効率的に行うダイズを開発したいと考えている。

植物は、大気中の窒素が豊富にあるにもかかわらずこれを使用することはできない。ダイズなどの豆科植物は、窒素を固定するために、土壌中の細菌 **Rhizobium**

との相互に有益な関係を形成する能力を持っている。根粒菌（Rhizobium）は、幼植物の根細胞に入り、細菌を収容するために建立形成を開始する。根粒内では、二つの別個のゾーン - 窒素を固定するゾーンと窒素を植物に搬送するゾーン - が同じ既存の根細胞から形成される。特定の根の細胞における特定の遺伝子の発現がゾーンの機能を決定する。Subramanian氏は、どのマイクロRNAがこのような機能分化を指令するのかを決定しようとしていると説明した。

本研究の詳細については、以下のサイトにあるSDSUのニュースリリースをご覧ください。<http://www.sdstate.edu/news/articles/plant-scientist-receives-nsf-career-award.cfm>

---

### MAUI 市長は、GM 作物のモラトリアム提案は現実的ではないとした

マウイ島ハワイ市長 Alan Arakawa 氏は、遺伝子組換え作物のモラトリアム案は、非現実的であると述べた。モラトリアム案は、安全性を証明するために、開発者が完全な環境と公衆衛生の研究を終えるまで、遺伝子組換え作物の栽培やテストを許可しないというものである。Arakawa 氏によるともしもモラトリアム案が 11 月 4 選挙で承認された場合、そのような提案を実行することは、「ほとんど不可能であり、まさに実行できない非現実的なものになる。」としている。

「提案によれば、ほとんど一人一人の家に行かなければならないような非常に侵襲的調査になり、また森林にあるすべての樹木を識別検査しなければならない。また牧草地では、GMO が出てくる全ての可能性を調べ何らかの制御が必要になる。」と市長、知事と州議会の候補者とのパネルディスカッションの中で語った。Arakawa 氏は、遺伝子組換えへの公式な姿勢を示さなかったが、遺伝子組換え作物が有害であるとは考えていないと述べた。

詳しくは、以下のサイトにある。

<http://mauinews.com/page/content.detail/id/590420/Arakawa--GMO-initiative-would-be--impractical-.html?nav=10>

---

### GMO 反対消費者は、GMOs が何であるかを理解していないことが分かった

「Jimmy Kimmel Live」という米国のテレビ番組でテレビのホストが地元の農業生産者の市場にカメラクルーを送って遺伝子組換え生物（GMOs）に対する対応とその理解をみるために消費者にインタビューした。インタビューに応じた大半は遺伝子組換え生物（GMOs）は、健康影響の可能性があるので買いたくないと言った。しかしながら GMO が何を意味しているのかと問われると正しく答えられなかった。つまり問題を全く理解していないことを示した。

このビデオは、以下のサイトある。 <http://www.medicaldaily.com/jimmy-kimmel-shows-most-people-think-gmos-are-bad-yet-they-have-no-idea-what-they-are-306809>

---

## 専門家が、アグリバイオの情報交換における課題を明らかにした

**Genome Prairie** は、カナダの 103 人の情報交換の専門家に対して農業や科学の大衆理解、情報交換戦略、農業に基本をおいた情報や意見の評価などの課題に関する理解や意見について調査を実施した。

回答者は、農業バイオテクノロジーの一般大衆のイメージに懸念を表明した。過半数（61%）は、一般大衆の認識は、負または悪化のどちらかであり、35%は中立的だった。そして4%が一般大衆の認識が改善されたと言っていることが示された。回答者は、農業バイオテクノロジーにおける誤報の多くは、特にソーシャルメディアネットワークを介していることを示した。彼らはまた、この問題に関する積極的な情報交換戦略の欠如があったことを強調した。この他に上げられたものは、情報源の信頼度、予算と時間の制約及び業界全体の調和の取れた努力の欠如だった。

この研究の詳細は以下のサイトにある。

[http://www.genomeprairie.ca/files/8214/1265/1492/GP\\_SCI\\_COMM\\_Final\\_Web.pdf](http://www.genomeprairie.ca/files/8214/1265/1492/GP_SCI_COMM_Final_Web.pdf)

---

## USDA は、害虫耐性（IR）ダイズ MON87751 の規制外の決定を延長

米国農務省動植物健全性検査サービス（APHIS）は、害虫耐性ダイズ MON 87751 に対する規制外の決定の延長を公表した。APHIS 副長官テクノロジー規制サービス担当の Michael Firko 氏は、MON 87751 ダイズ及びその子孫には、植物害虫にリスクをもたらすことはあり得ないとして APHIS バイオテクノロジー規制の下で規制対象とすることはもはや必要ないと判断した。従って APHIS は、MON87751 ダイズの規制外決定を延長する申請を承認した。

それ故に、以前に APHIS-承認または許可した環境放出、州間の移動、または輸入のために必要とされた許可または承認は、もはや MON 87751 ダイズ及びその子孫には必要ないことになった。

通知全文は、以下のサイトにある。

[http://www.aphis.usda.gov/brs/aphisdocs/13\\_33701p\\_det.pdf](http://www.aphis.usda.gov/brs/aphisdocs/13_33701p_det.pdf)

---

## アジア・太平洋

## 中国は、遺伝子組換え作物のメディアキャンペーンを開始

中国政府は、技術についての誤った情報に対処するために遺伝子組換え作物についてメディアキャンペーンを開始した。中国の農業省によると、テレビ、新聞、インターネットを通じてバイオテクノロジーについて一般大衆を教育しようとすることになる。

中国は主に飼料用と植物油のために、ここ数年間遺伝子組換え大豆を大量に輸入している。中国は世界の大豆の約3分の1を消費し、すべての輸入の約65%を占めている。

「遺伝的に修飾された業界の健全な発展のために有益な社会環境を（我々が創造する）。」と農業省は、声明を出している。

詳細と記事は、以下のサイトにある。

<http://www.scientificamerican.com/article/china-launches-media-campaign-to-back-genetically-modified-crops/>

---

## 来年からオーストラリアで除草剤耐性（RT）キャノーラが商業栽培される

オーストラリア初の二重除草剤耐性キャノーラ品種が、2015年に解放栽培できる。この品種は、**triazine** と **glyphosate** 耐性（RT）である。このRTは、Pacific Seeds から入手できる。

キャノーラ農家は、それが雑草管理の面での優れた特性を提供するとして新しい技術について期待を表明している。Victorian Farmers Federation (VFF)の理事長 Brett Hosking 氏は、「それは農薬回転利用の面に柔軟性をもたせ、除草剤耐性の発現を防ぐことになる。」と述べている。Pacific Seeds の技術部長 Justin Kudnig 氏によると500人以上の農学者やコンサルタントが、RT技術を評価する試験場を訪問し、新技術の有効性を自分の目で確かめた。

詳細は以下のサイトにある。

<http://www.farmweekly.com.au/news/agriculture/cropping/grains/herbicide-tolerant-canola-here-in-2015/2713782.aspx>

---

## 研究

### 様々の害虫制御下での BT イネの収量増の評価

中国の Huazhong Agricultural University の研究者と共同研究者が、以下の4害虫制御方式下で害虫抵抗性の Bt イネ品種の圃場での性能調査するための実験を行

った。： (1) すべての害虫に対する化学的制御、 (2) 標的害虫用化学的制御無し、 (3) 標的害虫の化学的制御、 (4) 化学制御全くなし。

結果は、従来種 MH63 に対して BT-MH63 (*cry1C*) と BT-MH63 (*cry2A*) の最大収量は、標的害虫用農薬なしの条件下で 8.4 と 25.4%増であった。 BT-MH63

(*cry1C*) の収量は、すべての害虫に対する化学的制御や標的害虫の化学的制御下で、従来の MH63 のそれよりも低かった。また、BT-MH63 (*cry2A*) の収量が唯一の標的害虫の化学的制御下で従来の MH63 のそれよりも低かった。

相関分析は、MH63 に対して BT-MH63 の利点は、MH63 へのコブノメイガ (*Cnaphalocrocis medinalis Guenee*)による傷害 (白葉のパーセンテージとして表される) と正の相関があった。 BT-MH63 (*cry1C*) と BT-MH63 (*cry2A*) は、その葉の Bt 蛋白質の含量に大きな違いを示したが、コブノメイガには、高い効果的な抵抗を示した。標的害虫用化学的制御無しの結果に基づいて、BT-MH63 は、従来の MH63 に対して収量増があった。しかしながら、BT-MH63 の収量は、標的害虫の化学的制御を行ったときには低かった。

研究成果の要旨は、以下のサイトにある。

<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0378429013003171>

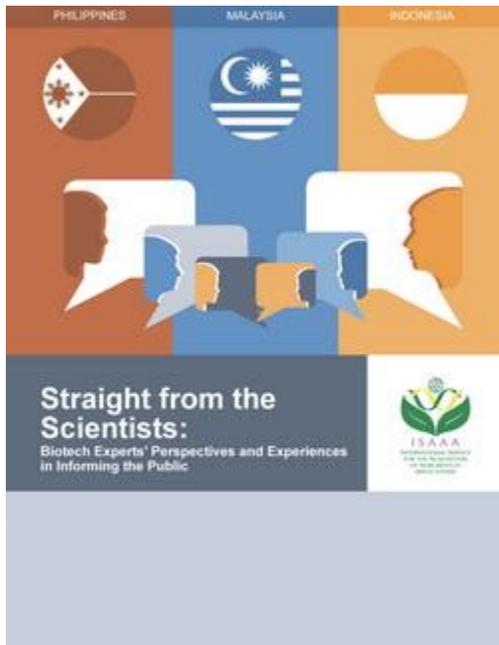
---

## 文献備忘録

### 科学者からの直言：一般大衆への情報提供に関する遺伝子組換え専門家の視点と経験

一般大衆の視点では、学者や科学者がバイオテクノロジーに関する情報の最も信頼性の高い、信頼できる情報源であり、信頼性階段の最上位レベルにある。学者や科学者がバイオテクノロジーコミュニケーションにおける役割を果たしているかを知るために ISAAA が研究を行った。研究の結果は、*Philippine Journal of Crop Science* 8月号(<http://www.cssp.org.ph/pjcs-issue/volume-39-no-2>)に掲載されている。研究のハイライトは、新しい ISAAA 出版物、「科学者からの直言：一般大衆への情報提供に関する遺伝子組換え専門家の視点と経験」と題して、ISAAA のバイオ

テクコミュニケーションシリーズの最新版として出版された。



この出版物は、無料で以下のサイトから取得できる。

<http://www.isaaa.org/resources/publications/scicommstudy/download/default.asp>

各地のバイオ情報センター（BICS）から

科学者と政策決定者が学生に農業研究に進むように勧めた

ウガンダバイオサイエンスインフォメーションセンター（UBIC）と協力者は、2014年10月2日に第二回全国バイオテクノロジーエッセイコンテストの表彰式を開催したエッセイコンテストのテーマは「農業バイオテクノロジーとその環境への影響第2段」であった。このコンテストを通じて、UBICは、学生が日常生活へのバイオテクノロジーの適用に関するアイデアを考え、またその環境へ影響を考慮することを奨励したいと考えている。

タイバイオ情報センター（THAI BIC）は、2つのバイオテック情報交換ワークショップを開催

科学者や研究者を対象とした作物バイオテクノロジーの情報交換トレーニングに関するワークショップとバイオセーフティ規制当局者のための同様のワークショップが、2014年9月24-25日にバンコク、ラマガーデンズホテルで開催された。この2つの事業は、タイバイオテクノロジーとバイオセーフティ情報センター（BBIC）によって開催された。BBICの Supat Attathom 博士と FoSTAT の Darunee Edwards 博士は、それぞれ、作物バイオテクノロジーと食品の安全性の問題の概要を説明した。ISAAAの Mariechel Navarro 博士は、科学コミュニケーションの概念と方法について講演した。



### Pangasinan AGRI 役員および農業生産者が BT ナスを支援発言

バイオテクノロジー101: セミナー・ワークショップと作物改良のためのバイオテクノロジー研究訪問に参加したナス生産のトップの自治体の Pangasinan 州からの 17 人の農業役員、地方政府の構成員及び農業生産者は、その技術、応用、および製品についての学習の後に現代のバイオテクノロジーに謝意を表明した。セミナー・ワークショップは 2014 年 10 月 15~17 日に University of the Philippines Los Baños-植物育種研究所 (UPLB-IPB) で開催された。活動のハイライトは、参加者が非常に大きな関心を Bt ナスの商業化栽培に向けているとの現状把握であった。参加者は辛抱強くの Bt ナス種子の開放を待っており、技術の恩恵を受けたいと述べた。

参加者は、医療バイオテクノロジー、遺伝子組換え作物に関する世界的なシナリオ、フィリピンの遺伝子工学、食品や環境安全性の科学、フィリピンのバイオセーフティ規制、Bt ナスの潜在的なメリットだけでなく、フィリピン農務省のアグリバイオの先導案、植物育種研究所 (IPB) と the UPLB-国立分子生物学及びバイオテクノロジー研究所からの説明を受けた。

実験室訪問や組織培養及び分子マーカーのデモンストレーションも IPB で行った。この事業は、ISAAA (国際アグリバイオ事業団)、農業バイオテクノロジー支援

プロジェクト II (ABSPII)、農業バイオテクノロジー情報センターの大学院研究と研究のための東南アジア地域センター (SEARCA BIC) が主催した。



*Participants, resource persons, and organizers of the Biotechnology 101 seminar-workshop for Pangasinan LGUs.*

フィリピンのバイオテクノロジーについての詳細は以下のサイトにある。  
<http://www.bic.searca.org/>.